

しらかべ

2022年7月20日 人権・同和教育部発行



盛夏の候、保護者の皆様方におかれましてはご健勝のことと存じます。日頃は本校の人権・同和教育にご理解とご協力をいただき厚くお礼申し上げます。

さて、今月号は6月に行った「人権・同和教育 LHR」での学習内容を、学び終えた生徒の感想を中心に紹介します。ぜひ、ご家庭でお読みいただければ幸いです。



◆1年生のLHR 人権スローガンを作ろう

今学期1回目の人権・同和教育LHRでは、「人権」の視点でクラス独自のスローガンを作成しました。もし一人で無人島に行くとしたら「必要なもの」は何かを、グループ（班）の中で出し合った上、グループメンバーの誰にとっても「必要なこと」へとスケールを広げて考えていきました。“個人の欲求”という自分中心の考えから“他者への思いやり”へと視点を広げていくことをめざしました。その後「みんなが過ごしやすいクラスになるためのキーワード」を考え、それをもとにクラス独自の人権スローガンを採択しました。入学して2か月、クラス全体で人権スローガンを考えることで、クラスの交流も深まり、一人ひとりが自らの学校生活を振り返る良い機会になったのではないかと思います。

《クラスの人権スローガン（一部）》

「励まし愛（あい）」／「喜努愛楽」／「無理っていいなよ、我慢せず」



《生徒の感想より》 ▲クラスがより仲良くなった感じがして嬉しいし、これからももっと仲良くなりたいと思った。▲それぞれのちがいを認めて、みんなで喜び、努力し、みんなを愛し、楽しもうと思います。▲人によって考え方が全然違うということを改めて知りました。「自分がこうしたい」と思ったことと同じことを思う人がいれば全く違う意見を持つ人もいることを理解した上で、今後も沢山の人と会話していくようにしたいです。▲自分のことばかりではなく相手が何を考え、どう感じているかを考えながら行動していきたいです。

❖ 2年生のLHR 同和問題とは何か

2年生では「高校生の同和問題学習」という副読本を用いて、同和問題学習を行っています。この副読本は、中讃地域の高等学校・特別支援学校の人権・同和教育主任が集まる研究会で編集されたもので、より使いやすいようにと改訂版が出されました。LHRでは映像教材「私の中の差別意識」を視聴し、そのあと、副読本を用いて部落差別の始まりや江戸時代の身分差別について学習しました。2, 3学期のLHRでは近代日本の中で差別と闘う人々と、日本最初の人権宣言と言われる水平社宣言について学習します。

《生徒の感想より》 ▲部落差別に限らず、差別は情報不足により、他人からの情報をそのまま信じていることが一番の原因だと思います。今回学んだことを家族にも伝えたいです。▲間違っていることを「間違っている」と言える人間になりたい。▲自分が大人になった時に、どのように教えるかも考えたい。

❖ 3年生のLHR 差別選考解消に向けて ~就職差別を事例に~

3年生では、居住地や家族構成など、自分自身に責任のないことから就職活動時に差別選考が行われる、就職差別の問題を考えました。どのような質問が差別につながるか、「就職差別につながる12項目の質問」を織り込んだ模擬面接をHR委員が行い、それをもとにクラスで考えました。近年の違反質問としては、家族が同業他社に勤めているかどうかを聞く例がしばしば報告されています。これは進学時の面接入試でも同じです。学生・生徒の皆さんには、緊張する面接においても、その質問はおかしいと判断できる人権感覚を持ってほしいと思います。



リアルな模擬面接ができました



HR運営委員が中心になって実施しました

《生徒の感想より》 ▲大学入試や就職試験では緊張しているため、質問されたことには素早く正確に答えようとして、どんな質問にも答えてしまいそうなので、答えなくてよい質問があることを知れて良かったです。今後も、正しい知識を持って、平等な評価がされるべきだと思います。▲就職差別に繋がる恐れのある12項目の見分け方として「本人に責任のない事柄」という特徴があることが分かった。▲過去には本籍地や宗教、血液型など、自分でどうすることもできないようなことで差別を受けた人がどれ程いるのだろうと思いました。何が良い質問で何が良くないのかをはっきり見極める力を付けたいと思いました。

今号の「人権通信 2022 しらかべ」をお読みになったの感想を、別紙の返信用紙に書いていただければ幸いです。2学期の始業式の日にお出し下さい。今後の人権通信作成の参考にさせていただきます。